

Why

米ソ対立に翻弄されたシベリア抑留者たち

なぜ人は線を引くのか？ テーマ作品連続講座第二弾

講師／登壇
小林昭菜（関東学院大学法学部准教授）
ウォーリー木下（『蛙昇天』演出、戯曲家・演出家）

KAATでは10月からはじまるメインシーズンにテーマを設け、テーマに紐づく作品を上演いたします。
今年度のテーマは「なぜ人は線を引くのか Why do people draw the lines?」。
それぞれの作品をきっかけに、テーマをより深める連続講座を開講します。

第二弾は「シベリア抑留」について考えます。

10月24日「土」から上演の『蛙昇天』は、米ソ冷戦激化の時期を背景に、シベリア抑留者の帰還をめぐる、当時の日本社会を揺るがせた実際の事件「徳田要請問題」をテーマに、木下順二が書き下ろした不朽の名作です。シベリア抑留者たちがどのような立場に置かれていたのか、「徳田要請問題」にふれながら、米ソ冷戦との関係と「シベリア抑留」について考えます。



小林昭菜：長野県生まれ。法政大学大学院政治学研究科博士課程修了。ロシア科学アカデミー東洋学研究所派遣研究員、ビッツバーク大学世界史センター派遣研究員、多摩大学准教授などを経て、2025年から現職。第1回「村山常雄記念シベリア抑留研究奨励賞」受賞（2016年）。主要著作『シベリア抑留 米ソ関係の中での変容』岩波書店、2018年、『ロシアから見たウクライナ問題』『アジアアフリカ研究』62（4）2022年など。



ウォーリー木下：戯曲家・演出家。93年、神戸大学在学中に劇団☆世界一団（現sunday）を結成。特に役者の身体性を重視した演出が特徴。テキストに関しても、戯曲以外のものを使用することが多い。映像や音楽を取り入れた言葉を発しない、ノンバーバルパフォーマンス集団 THE ORIGINAL TEMPOのプロデュースを行い、エジンバラ演劇祭にて5つ星を獲得。その後、スロベニアや韓国、ドイツなどと国際共同製作を行い、海外からも高い評価を得ている。ストリートシアターフェス ストレンジシード静岡など様々な演劇祭でフェスティバルディレクターを務めている。メディアアートとパフォーマンスの融合で注目を集め、従来の「演劇」という概念を超えた新しい挑戦を続けている。近年の代表作は、東京2020パラリンピック開会式（演出）、『ハイパープロジェクト演劇』『ハイキュー!!』シリーズ（演出・脚本）、『チャーリーとチョコレート工場』、『Mrs. GREEN APPLE 2023-2024 FC TOUR "The White Lounge"』（ミュージカル演出）、ミュージカル『町田くんの世界』。第49回菊田一夫演劇賞受賞。

日時：2026年10月15日「木」 10:00-11:30（開場9:45）

会場：横浜市開港記念会館（9号室）

〒231-0005 横浜市中区本町1丁目6番地

〔電車でお越しの方〕

・JR京浜東北線・根岸線「関内駅」南口から徒歩10分

・市営地下鉄線「関内駅」1番出口から徒歩10分

・みなとみらい線「日本大通り駅」1番出口から徒歩1分

〔バスでお越しの場合〕

・「本町1丁目」から徒歩1分 ・「日本大通り駅・県庁前」から徒歩3分

・「開港記念会館前」から徒歩1分

参加費：無料

お申し込みは右の二次元コードより

※お申し込み締切：10月14日「水」 定員に達し次第受付終了となります



公演情報：

「なぜ人は線を引くのか」テーマ作品

KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース『蛙昇天』

作：木下順二 演出：ウォーリー木下

出演：中山優馬 矢崎広 音月桂 中村里帆 市川しんべー

久ヶ沢徹 町田マリー 百瀬朔 白又敦

神保悟志 温水洋一 ほか

日程：2026年10月24日「土」-11月8日「日」

会場：KAAT 神奈川芸術劇場 くホール >



チケット好評発売中

主催・お問合せ：

KAAT 神奈川芸術劇場

045-633-6500（10:00-18:00）

<https://www.kaat.jp>

KAAT 2026-27メインシーズン

KAAT

KANAGAWA ARTS THEATRE